

平成23年度

公益事業振興補助事業

補助事業実施に関する事務手続要領
別冊 「補助事業評価事務手続要領」
.....

(新世紀未来創造プロジェクト)

財団法人 **J K A**

目 次

はじめに	1
I 補助事業評価の流れ	2
II 補助事業の評価について	3
(地域ふれあい交流活動)	
III 事前計画の作成・記入にあたって	10
事前計画の作成の注意事項(1)	10
事前計画 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	11～12
事前計画の作成の注意事項(2)	13
IV 自己評価書の作成にあたって	
自己評価書の作成の注意事項(1)	14
自己評価書 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	15～16
自己評価書の作成の注意事項(2)	17
(実践的研究を通じた人間力育成支援活動)	
III 事前計画の作成・記入にあたって	18
事前計画の作成の注意事項(1)	18
事前計画 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	19～20
事前計画の作成の注意事項(2)	21
IV 自己評価書の作成にあたって	22
自己評価書の作成の注意事項(1)	22
自己評価書 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	23～24
自己評価書の作成の注意事項(2)	25

本要領は、平成23年度公益事業振興補助事業補助事業実施に関する事務手続要領(以下「補助要領」といいます。)の別冊として、平成23年度公益事業振興補助事業の評価に係る諸手続きに関して必要な事項を定めたものです。

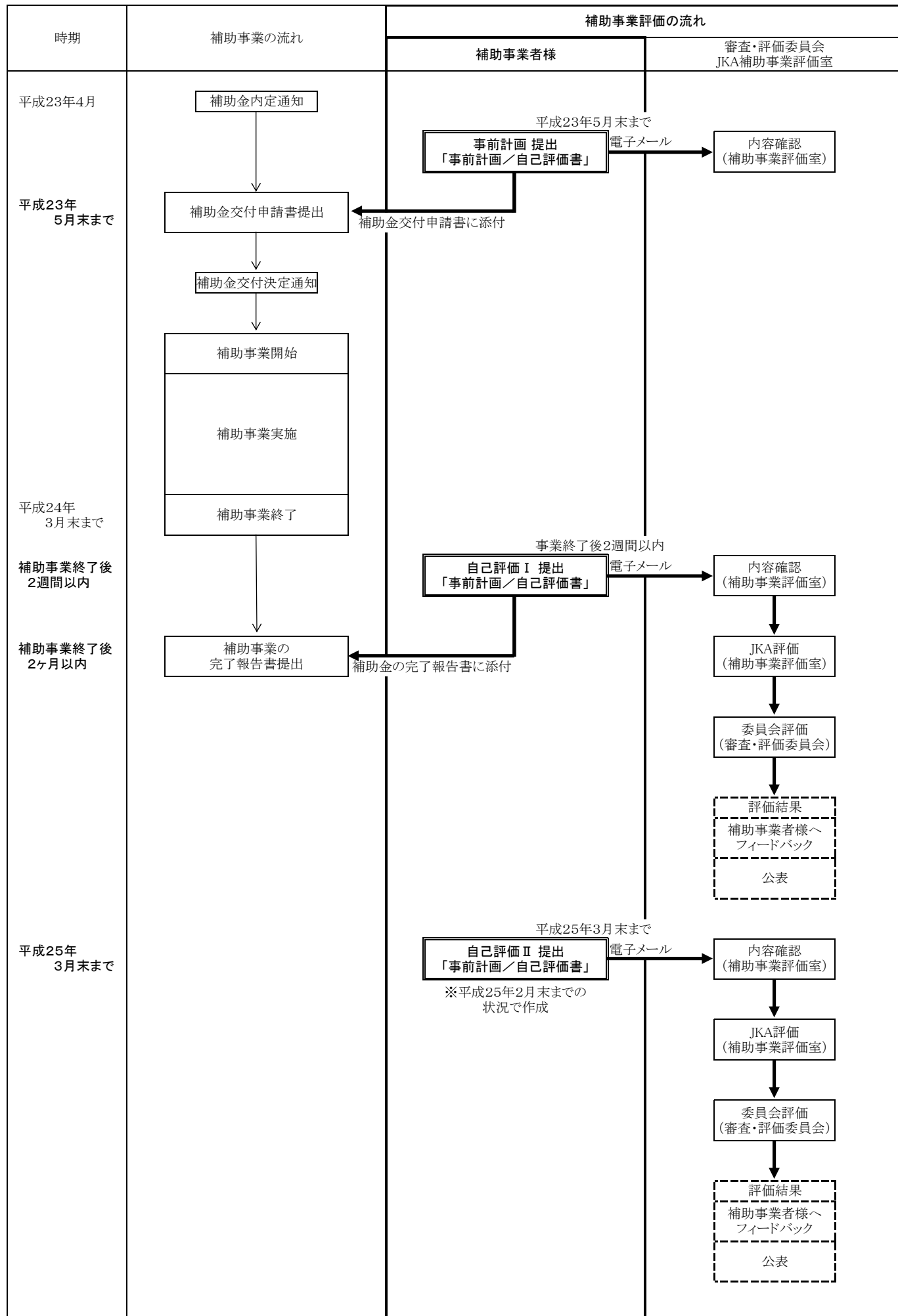
補助事業の評価にあたっては、「競輪公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の補助を行うための業務方法に関する規程」及び「オートレース公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の補助を行うための業務方法に関する規程」(両規程を総称して以下「公益規程」といいます。)並びに「競輪公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に関する補助細則」及び「オートレース公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に関する補助細則」の他、補助要領及び本要領に定めた事項に従って事務処理を進めてください。

★ 事前計画／自己評価書の作成にあたって★

- 事前計画／自己評価書の様式は、本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。
- 事前計画は、本財団が補助事業の審査をするにあたって、また補助事業者様自らが事業を管理するにあたって、非常に重要なアイテムです。
- 事前計画作成の際は、自己評価書作成時に使用する、「記入のガイドライン」、「自己評価のスコアリングガイド」等もご確認ください。
- 事前計画は、事業終了後に行う自己評価とともに、公表の対象となりますので、作成にあたっては、次の各点にご留意ください。
 - ・内容を簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するようにしてください。
 - ・専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用し、初めて読む方にも理解し易い説明、文章を心がけてください。

問 合 せ 先	財団法人 JKA 補助事業評価室 評価担当
	〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6
電 話 直 通	03-3512-1279
FAX	03-3512-1274
問い合わせ時間	平日の午前9時30分から午前12時まで 午後1時から午後5時30分まで
URL	http://ringring-keirin.jp
Email	p23hyoka@keirin-autorace.or.jp

I 補助事業評価の流れ



II 補助事業の評価について

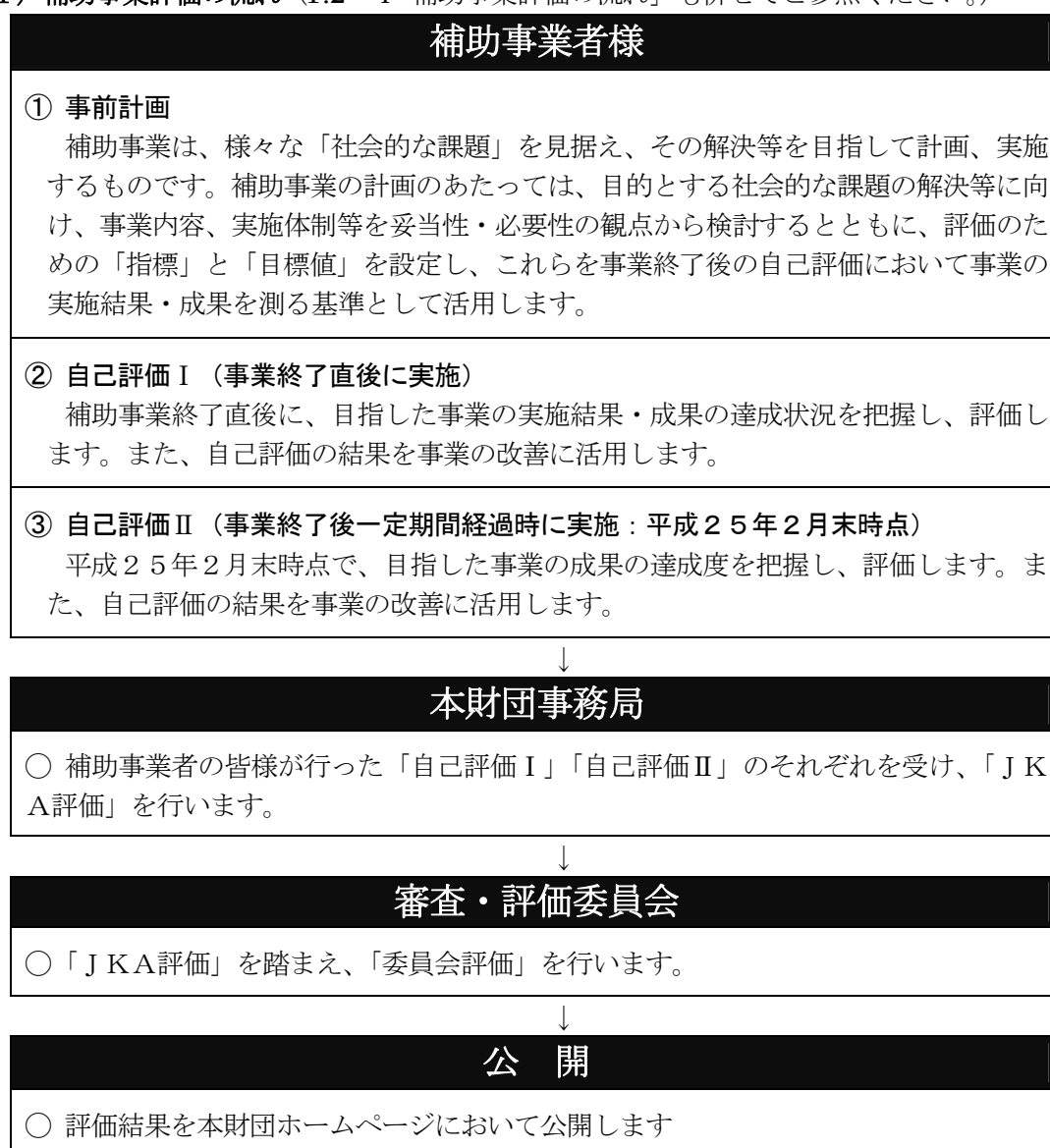
本財団は、補助事業の透明性、効率性を確保するとともに、補助事業の更なる向上を図るため、外部の有識者による公益事業振興補助事業審査・評価委員会（以下「委員会」といいます。）を設置して補助事業の評価を行い、その結果を公表することとしています。

補助事業者の皆様には、補助事業評価の一環として、下記に掲げる「事前計画」から始まる、一連の「自己評価」を行っていただきます。

「自己評価」は、事業の実施結果の確認、成果の測定にとどまらず、評価の視点で事業全体を振り返ることで、課題等が明確になり、補助事業者様自らの今後の事業の改善等に役立てることができます。

1. 補助事業評価の枠組み

（１）補助事業評価の流れ（P.2「I 補助事業評価の流れ」も併せてご参照ください。）



（２）補助事業者様に、委員会で補助事業の成果を発表していただく場合がございます。

（３）委員会委員が、実際に補助事業の現場を見せていただく場合がございます。

※上記（２）（３）ともに、候補を選定のうえ、対象となる補助事業者様にご連絡します。

2. 事前計画について

(1) 補助事業の事前計画の企画・立案・実施

補助事業者の皆様の実施する補助事業は、補助事業者様自らが、ある特定の「社会的課題」を見据え、その改善、解消、解決を最終目的として、企画・立案し、実施するものです。

ア 補助事業の企画・立案

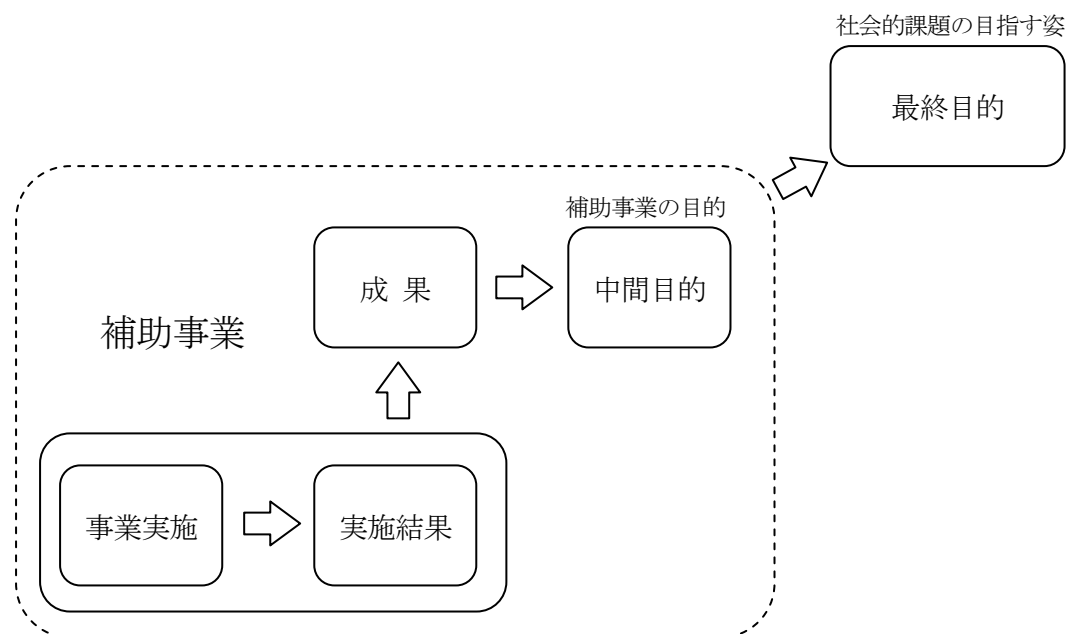
- ① 「社会的課題」の把握
- ② 達成すべき「社会的課題が解決・改善された目指す姿（最終目的）」を設定
- ③ 最終目的に至るまでの手法を検討・決定

【「補助事業」を企画・立案】

- 1) 最終目的を実現するための、「補助事業の目的（中間目的）」を設定
 - 2) 中間目的を実現するための、補助事業の実施内容、目指す実施結果・成果を設定
- ※ 「社会的課題」の把握 ⇒ 最終目的を設定 ⇒ 「補助事業」を企画・立案（中間目的の設定 → 実施内容・実施結果・成果を設定）

イ 補助事業の実施

- ① 「補助事業」を実施
 - ② 予定した「補助事業」の「実施結果」を達成
 - ③ 予定した「補助事業」の「成果（社会に及ぼす改善効果）」を達成
 - ④ 中間目的を達成
 - ⑤ 最終目的を達成（「社会的課題」の改善・解決等）
- ※ 「補助事業」を実施 ⇒ 実施結果 ⇒ 成果を達成 ⇒ 補助事業の目的（中間目的）を達成 ⇒ 社会的課題が解決・改善された目指す姿（最終目的）を達成



ウ 「事前計画／自己評価書」への記入

上記を踏まえ、補助事業の事前計画を、(P.6「3. 事前計画の作成・提出」)に従い、次の順でご記入ください。

- ① 補助事業で改善・解決等を目指す、「社会的課題（最終目的）」の「現状」と「目指す

姿」を明確に記入する。

② 「社会的課題（最終目的）」の改善・解決等のために、補助事業（成果・波及効果）で達成を目指す「補助事業の目的（中間目的）」の達成後の姿を明確に記入する。

③ 「補助事業の目的（中間目的）」を達成するための、補助事業の内容と、目標とする「事業の実施結果」、「事業の成果・波及」等を明確に記入する。

（２）事業の「実施結果」と事業の「成果」

補助事業による効果が目的とする社会的な課題の解決に寄与していることを明確にするため、下記のとおり、補助事業の「実施結果」と「成果」を明確に区分し、把握することが重要です。（それぞれに後述の指標及び目標値を設定します。）

ア 事業の「実施結果」

事業実施の直接的な産出物、提供されたサービス

（例）福祉車両の配備（されたこと）、施設の建築（されたこと）、講習会の開催実績（回数・参加者人数等）、児童虐待防止啓発チラシの配布実績（配布枚数・箇所数等）

※P6「評価指標の設定例」（枠内）では、「夜回りの回数」「夜回りの参加人数」

イ 事業の「成果」

事業の実施結果をもとに受益者、対象に起こる改善効果（変化）

（例）障がい者の社会参加の促進・受益者の意識改革※P6「評価指標の設定例」（枠内）では、「（月平均の）落書き件数」

① 事業終了直後に把握できる「成果」

「実施結果」の直接的影響で、事業実施中・直後に生じる受益者・対象への効果等

（例）講習会参加者の意識の変化・改革、満足度等

② 事業終了後一定期間が経過して把握できる「成果」

「実施結果」・「成果（終了直後）」を通じて生じる、受益者・対象への効果等

（例）講習会参加者のその後の行動等の変化、さらには地域社会への影響、新分野の産業の萌芽、地元産業の基盤拡大等

（３）評価のための「指標」と「目標値」を設定する

「実施結果」・「成果」を把握し評価するため、事前計画で評価のための「指標」と「目標値」を設定します。

ア 評価のための「指標」の設定

① 評価のための指標とは、事業の結果・成果を評価する物差しとなるもので、基本的には、測定できる数字で表したものです。

② どの指標及び測定方法を選択することが成果を測ることに適しているのか、事前計画段階において関係者間で十分に検討することが重要です。

③ 指標及びその測定方法を設定するポイントを以下に掲げました。

- ・ 測定すべきものを測定していること（どこの段階の何を測定するのか）
- ・ 具体的で測定が容易であること
- ・ 数値等、具体的な値を設定することができ、計測が容易（コストや手間から見て現実的である）で、結果が比較的短期間（１年程度）で得られること

- ・ 信頼できる結果であること
- ・ 何回測っても、誰が行っても同じ結果が得られること

【評価指標の設定例】

例として「商店のシャッターや外壁に落書きが多発し、商店街の景観が損なわれている」（課題）を解決し、「きれいな商店街を取り戻す」（目指す姿）ことを目的とした事業を行うことを考えます。

落書きを抑止には、様々な事業（例えば、定期的に夜回りを行う、啓発チラシを作成・配布する、街灯の増設・光量を増やす、防犯カメラを要所に設置・増設する、落書きを発生直後に消去して落書きをしにくい環境をつくる 等々）が考えられますが、ここでは、「警察と連携した、商店会有志による夜回り実施」事業を採用したとします。

この事業の結果、成果を評価するために、何を測定すれば（何を指標とすれば）良いかが、ポイントとなります。

【指標・目標値の例】

1) 事業の「実施結果」

「実施結果」は、「事業実施の直接的な産出物、提供されたサービス」ですので、

【指標】は、「夜回りの回数」、「夜回りの参加人数」等が、

【目標値】は、「夜回り」月 30 回、「参加人数」平均 5 人等が考えられます。

2) 事業の「成果」

「成果」は、「事業の実施結果をもとに受益者、対象に起こる改善効果（変化）」ですので、

【指標】は、「（月平均の）落書き件数」等が、

【目標値】は、「落書き件数」の80%減少等が考えられます。

イ 「目標値」の設定

① 指標設定の次に、どのくらいの達成を目指すのかという目標値を設定します。

② 目標値は、補助事業評価の判断基準となるもので、非常に重要な項目です。

なぜそのような目標値に設定するのか、その根拠を統計や基準などによって説明できる必要があります。また、その目標値が関係者間で合意されていることが大切です。

3. 事前計画の作成・提出

事前計画は、補助金交付要望時に「事前計画／自己評価書」にてご提出いただいています。が、今般様式を変更し、補助事業で解決を目指す「社会的課題欄」等を追加するとともに、評価項目によっては新たに指標と目標値欄を設けましたので、（「Ⅲ 事前計画の作成にあたって」地域ふれあい交流活動：P.10～P.13、実践的研究を通じた人間力育成支援活動：P.18～P.21）に従い作成の上、補助金交付申請時に補助金交付申請書に添付しご提出ください。また、併せて、補助事業評価室へメールにてご送付ください。

(1) 様式

事前計画／自己評価書は、本財団ホームページからダウンロードした様式をご使用ください。

(2) 補助事業評価室への提出

紙面での提出と併せて、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へもメールにてご提出をお願いします。

【事前計画のメール提出】 補助金交付申請と同時

メール件名を「事前計画」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 事前 補助事業者名」としてください。

(例) 23-〇-〇〇 事前 (社) 〇〇協会

(3) 計画変更について

補助金交付要望時の「事前計画」に変更を加える場合は、今までの「事前計画」を「補助事業交付要望時欄」へ記入し、計画の変更に伴う「事前計画」を「計画変更時（最終計画）欄」へ記入してご提出ください。

4. 自己評価について

(1) 自己評価を行う意義

事前計画時に設定した指標及び目標値、または実施体制等について、事業終了後にその達成状況、実施状況を評価していただきます。自己評価は、事業の実施結果の確認、成果の測定にとどまらず、事業全体を振り返り、評価結果を確認・分析し、なぜそうなったかを考えることで事業の課題等が明確になり、教訓（新たな知識、知見）を得ることで、補助事業者様自らの今後の事業の改善等に役立ててすることができます。

(2) 自己評価の実施

自己評価は、「自己評価Ⅰ」と「自己評価Ⅱ」の2回実施していただきます。

ア 1回目（自己評価Ⅰ）⇒ 事業終了日から2週間以内に本財団へ提出

「事業終了後すぐ」に評価委員会等を開催のうえ評価を実施していただき、補助事業の実施状況、補助事業の実施結果、実施直後に発生する成果（改善効果）について把握し、事前計画と照らして評価していただきます。

※自己評価Ⅰの実施・自己評価書作成は、（(P.8「5. 自己評価書の作成・提出（1）」）に従ってください。

イ 2回目（自己評価Ⅱ）⇒ 平成25年3月末までに本財団へ提出

「事業終了から一定期間経過後」（平成25年3月）に評価委員会等を開催のうえ評価を実施していただき、（平成25年2月末までの）補助事業の成果・波及効果及び、広報の状況について把握・評価いただくとともに、事前計画で掲げた「補助事業の目的

(中間目標)」、「社会的課題(最終目標)」への貢献、達成状況を評価していただきます。
※自己評価Ⅱの実施・自己評価書作成は、(P.9「5. 自己評価書の作成・提出(2)」)に従ってください。

(3) 自己評価のポイント

ア 評価結果が活用できること

評価結果がわかりやすく、役に立つものであることが大切です。そのためには、自己評価を実施する前に、何のために自己評価を行うのかを再度確認してください。

イ 信頼できる評価であること

補助事業に係わる一部の特定の担当者や組織だけでなく、なるべく利用者や参加者などの幅広い関係者、外部の第三者なども加わった評価委員会を組織し、評価を行うことが望まれます。

なお、特定の関係者のみで自己評価を実施しなければならない場合には、それ以外の関係者などの意見をヒアリングするなど、信頼できる自己評価に努めてください。

※評価にあたっては、議事録等を作成し評価過程を記録してください。

5. 自己評価書の作成・提出 (2回)

(1) 1回目 【自己評価Ⅰの提出(事業終了後2週間以内)】

ア 自己評価の実施

事業終了後、すぐに評価委員会等を開催し、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」をもとに、補助事業の評価を行ってください。

※その際は、参加者、評価過程等を必ず記録してください。(議事録等)

イ 自己評価Ⅰの作成・提出

(「IV 自己評価書の作成にあたって」地域ふれあい交流活動：P.14～P.17、実践的研究を通じた人間力育成支援活動：P.22～P.25)に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記するかたちで、自己評価Ⅰを作成し、**事業終了後2週間以内に**、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp (補助事業評価室)へメールにて、ご提出をお願いします。

② 作成した自己評価は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面(モノクロプリント)でもご提出ください。

【自己評価Ⅰのメール提出】 事業終了後2週間以内

メール件名を「自己評価Ⅰ」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 評価Ⅰ 補助事業者名」としてください。

(例) 23-〇-〇〇 評価Ⅰ (社) 〇〇協会

(2) 2回目 【自己評価Ⅱの提出（平成25年3月）】

ア 自己評価の実施

平成25年3月を迎えたら、すぐに評価委員会等を開催し、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」をもとに、平成25年2月末までの補助事業の成果とその波及状況等について、評価を行ってください。

※その際は、参加者、評価過程等を必ず記録してください。（議事録等）

イ 自己評価Ⅱの作成・提出

（「Ⅳ 自己評価書の作成にあたって」地域ふれあい交流活動：P.14～P.17、実践的研究を通じた人間力育成支援活動：P.22～P.25）に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記するかたちで、自己評価Ⅱを作成し、平成25年3月末までに、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにてご提出をお願いします。

【自己評価Ⅱのメール提出】 平成25年3月末まで

メール件名を「自己評価Ⅱ」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 評価Ⅱ 補助事業者名」としてください。

（例） 23-〇-〇〇 評価Ⅱ （社）〇〇協会

6. 評価結果の公開

評価結果については、補助方針にも示したとおり「Ring! Ring! プロジェクト」のホームページで公開いたします。

7. 委員会における成果の発表

補助事業者様に、委員会で補助事業の成果を発表していただく場合がございます。

8. 現場視察

委員会委員が、実際に補助事業の現場を見せていただく場合がございます。

9. お問い合わせ

「事前計画／自己評価書」の作成についてご不明な点がございましたら、補助事業評価室までお問い合わせください。（補助事業評価室 担当 木村・石川）

連絡先 電話 03-3512-1279

※電話受付時間 午前9時30分～午前12時・午後1時～午後5時30分

Eメール p23hyoka@keirin-autorace.or.jp

Ⅲ 事前計画の作成にあたって

事前計画の作成の注意事項（１）

補助事業の事前計画を、右ページの様式の記入ガイドライン(噴出し部分)、記入例等を参考に作成してください。（P4「2. 事前計画について」も併せてご参照ください。）

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A3横版の2枚構成になっています。

- (1) 事前計画は、補助金交付内定通知 別紙「事業計画書」の3. 補助事業計画（2）内容欄に列挙された項目（事業）毎に作成してください。
- (2) 様式は、必ず本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。
 - ア 事前計画で記入する箇所は、白抜きの太枠で囲まれた欄のみです。
 - イ 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。
 - ウ 要望時から計画に変更のない事業は「補助金交付要望時」の列に記入してください。査定結果で事業内容に変更が生じた事業は、要望時の計画を「補助金交付要望時」の列に記入し、さらに、変更箇所のみを隣の「計画変更時」の列に記入してください。
 - エ 「指標」と「目標値」は、必ずご記入ください。（P.5・P.6もご参照ください。）
 - ① 指標、目標値欄が設定された評価項目
「自己評価」で達成率（達成状況）を計算していただきますので、数値で表現した指標と目標値を必ず1セット以上設定してください。
 - ② 指標、目標値欄の設定がない評価項目
できるだけ数値で表現できる指標と目標を設定し、ご記入ください。
（数値表現が難しい場合は、数値以外の指標と目標を設定するよう努めてください。）
 - ③ 指標、目標値の設定にあたっては、必ずその設定根拠を具体的な内容欄に記入してください。

【右ページの丸付き数字の欄は以下のとおり記入してください。】

- ① 内定通知書に記載された整理番号。
- ② 要望時から補助事業者名の変更があるときは名称変更欄へ旧名称を記入。
- ③ 内定通知書に記載された事業名。
- ④ ①の項番に該当する項目名。
- ⑤ 要望書提出時のそれぞれの金額を記入。

補助事業者名 ②	〇〇県 〇〇市立〇〇小学校	事業項目名	該当しない文字を削除してください。	補助金(千円) ⑤	補助対象経費総額(千円)
補助事業名 ③	平成23年度 地域ふれあい交流活動 補助事業	補助対象事業	・地域ふれあい交流活動 ④	交付要望額	700
		事業コード		交付決定額(a)	
				最終 決算額	700

数字は全て半角で入力してください。①⑤
千円未満は切捨ててください。⑤

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題(補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください)

社会的課題 (最終目的)	現 状	子どもたちの地域との交流経験の機会が少なく、地域への関心が低くなっている。
	目指す姿	子どもたちが地域の大人たちとの交流の機会をもつことによって、地域への関心が持てるようになる。

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価(社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください)

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業 の目的 (中間目的)	・地域の特産物生産従事者との交流を通じて、子供たちが学習や体験を通して、子どもたちの地域への関心を高める。
-----------------------	---

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

(2) 補助事業の事前計画

事前計画		作成者名、作成日(半角)を入力してください。 2ページ目には自動的に反映されます。		(3) 補助事業の自己評価(自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)	
評価項目		補助金 交付要望時 作成者() [平成 年 月 日]	計画変更時(最終計画) 作成者() [平成 年 月 日]	自己評価Ⅰ 補助事業終了時作成 作成者() [平成 年 月 日]	自己評価Ⅱ 平成25年3月に作成 作成者() [平成 年 月 日]
A 事業内容	受 益 者	対象者 本校教職員、本校児童(6、5年生、約120名)		分析・解釈・価値判断	
	ニーズ	新興住宅地から通う児童がここ数年で増加し、児童全般的に、地域と接する機会が減少している。		採点	
	具体的内容	子どもたちと地域の大人との交流の機会をつくる。 ①果物作り農家で働く大人が先生になり、〇〇の果物づくりと農業の仕組みについての特別授業を子供たちが受ける。 ②果物農家ででの援農体験をする。本校児童6、5年生を対象にグループを編成する(10～14グループ) 果物農家で収穫体験／選別作業の手伝い／ワイン仕込み体験を行う(各1、2日づつ) ③果物の皮の染料を用いた土産品づくりをし、駅前商店街のイベントで買い物客等へ無料で配布する。		記入のガイドライン	
	実施計画	①特別授業：地域の農家の従事者を学校へ招き、〇〇の果物づくりと農業の仕組みについて学ぶ。 特別授業6月～7月に開催し、生徒の父母や地域住民なども招いて、公開で行う。 ②果物農家ででの援農を体験する。本校児童6、5年生を対象にグループを編成する(10～14グループ) 果物農家で収穫体験／選別作業の手伝い／ワイン仕込み体験を行う(各1、2日づつ) ③果物の皮の染料で地域の土産品づくり(9～10月)：葉等の土産品づくりを行い、駅前商店街のイベント(10月)で無料配布する。			
B 目標	事業の実施結果	①特別授業回数 ②援農体験回数 ③配布数	①4回 ②各人3日 ③240枚	①特別授業回数は講堂において学年に分けて2回で合計4回とした。 ②援農体験回数は収穫体験と選別作業とワイン作り体験を1日づつで合計3日とした。 ③土産品をひとり2枚の葉を作成し配布する、配布数は240枚とした。	
	事業の成果・波及	①受入農家と児童の継続的な関わり	①60%	①本事業をきっかけに、児童と受入農家を中心とした地域の方々との交流が継続的におこなわれていることを目標とする。具体的には、事業終了後に手紙やメールのやりとり、訪問、作業の手伝いなどの交流が継続していることを児童にアンケートをおこない確認する。参加児童の60%以上が、交流を継続していることを目標値とする。	

※社会的課題と補助事業の関係(なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか?)

- 補助事業は、様々な「社会的課題」を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指し、計画・設計し、実施するものです。
(1) 補助事業の設計
「社会的課題」の把握 ⇒ (改善・解決のための手法決定) ⇒ 達成「目的」の設定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
(2) 補助事業の実施
「補助事業」の実施 ⇒ 「補助事業」の実施結果 ⇒ 「補助事業」の成果(改善効果) ⇒ 「目的」の達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等
- 左記に「社会的課題と補助事業の関係」を示す「流れ図」を掲げましたので、事前計画とともに内容を記入し、流れ図を完成してください。
- 補助事業の設計と実施にあたっては、この「流れ図」と自らの補助事業を対比し、計画は明確な「目的」、「成果」、「結果」、「内容」が設定され、「社会的課題」の改善・解決等に資するものであるか(流れを合理的に説明できるか)を、常に検証してください。
- また、補助事業実施の効果等を客観的に把握し今後の改善につなげるため、各評価項目の達成度を検証する「指標」(達成指標)と「目標値」を計画段階でこの「事前計画／自己評価書」で明示し、事業実施後に各評価項目の「指標」の達成度を検証し、事業を評価することが重要です。

枠内は補助事業終了後に作成してください。

枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

(2) 補助事業の事前計画

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

評価項目		事前計画						自己評価				採点		
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ				
		作成者() [平成 年 月 日]			作成者() [平成 年 月 日]			作成者() [平成 年 月 日]		作成者() [平成 年 月 日]				
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断				
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①ホームページ掲載更新回数 ②学校便り掲載回数	①4回 ②1回	①本校ホームページに、特別授業で2回、援農体験後1回、商店街イベントでの配布風景1回。(5～10月に4回更新) ②特別事業風景掲載1回			<div>【上段】事業開始から事業終了後2週間までの広報計画を記入してください。 補助事業であることを貴学校や地域内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【下段】事業終了後2週間後から25年2月末までの間の広報計画を記入してください。 補助事業であることを貴学校や地域内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【指標・目標値(例)】マスメディアの取材回数・2回、地域新聞・学校誌掲載時期・2回 等</div> <div>【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。</div>							
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①地域の新聞他掲載回数	①2回	①地域ふれあい新聞1紙、学校便り1回										
	JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	①ホームページ掲載更新回数 ②特別授業時に掲示、紹介 ③受入れ農家にのぼり ④イベントでのぼり	①4回 ②4回 ③30回 ④1ヶ所	①本事業ブログに、本事業はJKAの「新世紀未来創造プロジェクト」の補助にて実施する旨を明記する。 ②父母や地域住民を招いて公開で行う特別授業時に、「JKA新世紀未来プロジェクト」の掲示と、紹介を行う。全4回(7～8月) ③援農体験時に補助事業であることを明記したのぼりを立てる。(10グループ×3日間) ④商店街のイベント時に、ブースへののぼりを立てる。				<div>【上段】事業開始から事業終了後2週間までの広報計画を記入してください。JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることを貴学校や地域内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【下段】事業終了後2週間後から25年2月末までの間の広報計画を記入してください。JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることを貴学校や地域内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【指標・目標値(例)】マスメディアの取材回数・2回、地域新聞・学校誌掲載時期・3回 等</div> <div>【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。</div>						
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①地域の新聞他掲載回数	①2回	①地域ふれあい新聞1紙、学校便り1回										
		具体的な内容						具体的な内容		分析・解釈・価値判断		採点		
D 自己評価の体制		事業実施委員会(職員、地域農家、PTA、商店街組合)を中心とし、さらに県教育委員会、市教育課などからも委員を招いた評価委員会を事業終了後に開催し、自己評価を決定する						<div>事業の自己評価体制について、以下の項目を記入してください。 ○評価を実施する体制(メンバー構成など)、責任者 ○評価の具体的な方法、手順 ○構成に第3者(外部委員など)が入るのであればその旨記入してください。 ○自己評価結果の公表方法</div> <div>※詳細は、スコアリングガイドを参照。</div>						

(4) 補助事業の総括 Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

総合評価

今回の事業で、優れていると評価できる点	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点
事業全体の総括的感想	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)

(5) 補助事業の総括 Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況(必須)	
----------------------------------	--

事前計画の作成の注意事項（２）

（３）事前計画の提出

事前計画は、本要領に従い、ご記入の上、補助事業交付申請時に紙面（モノクロプリント）で補助金交付申請書に添付しご提出ください。

※紙面でのご提出と併せて、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へもメールにてご提出をお願いします。

※メール提出方法は、（P.6「３．事前計画の作成・提出」）をご参照ください。

補助事業の表示・公表について（重要）

当該事業が補助事業であることの表示と、補助事業の実施内容と成果の公表が行われない場合、あるいは不十分な場合は、公益規程第 30 条の定めにより、補助金の全部又は一部の交付の決定を取り消す場合がありますので、表示・公表を徹底してください。また、十分なPRに務めてください。

（本財団では、証左となる写真、印刷物、映像・音声データ等のご提出を求めます。）

○補助事業を実施する場合には、補助事業である旨の表示

「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることが、補助事業に接する一般の方にご認識いただけることがポイントです。（標識の表示等）

○「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることの公表

「JKA の競輪・オートレースの補助金で事業を実施したこと」を、広く社会一般にお知らせすることがポイントです。（市報への掲載等）

※表示等の詳細は、補助要領をご参照ください。

IV 自己評価書の作成にあたって

自己評価書の作成の注意事項（１）

自己評価を、右ページの様式の記入ガイドライン（噴出し部分）と記入例等を参考に、提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記（採点欄のある評価項目は、自己評価のスコアリングガイドを基準に採点・記入）し、提出してください。（P.7「4. 自己評価について」）も併せてご参照ください。

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A 3 横版の 2 枚構成になっています。

(1) 自己評価は、採点も含め、評価委員会等の自己評価体制の合意のもとで実施してください。

※評価にあたっては、議事録等を作成し評価過程を記録してください。

(2) 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

(3) 記入箇所と提出期限

① 1 回目（自己評価Ⅰと補助事業の総括Ⅰ）

右ページ「記入例」では太枠で囲まれた欄（ダウンロード上は青色に彩色された欄）です。

② 2 回目（自己評価Ⅱと補助事業の総括Ⅱ）

右ページでは角丸二重枠で囲まれた欄（ダウンロード上はピンク色に彩色された欄）です。

(4) 非数値の指標と目標値の達成状況

評価項目により、非数値の指標と目標を設定した場合でも、その達成状況を必ずご記入ください。

【自己評価のスコアリングガイド 1/2】

A 受益者	5	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した受益者を超えて、補助事業の効果が大きな広がりを見せている。
	4	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。
	3	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該受益者のニーズにほぼ沿った事業を実施することができた。
	2	受益対象者、ニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。または、受益対象者、ニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該受益者のニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。
	1	受益対象者、ニーズの想定に大きな誤りがあった。または、受益対象者、ニーズの想定に誤りがなかったものの、本事業の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても当該受益者のニーズに対応することができなかった。
A 実施計画及び実施体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える事業を実施することができた。
	4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に事業を実施できた。
	3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく事業を実施できた。
	2	事前計画に不十分な部分（実施手法・スケジュール・コスト・体制）があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
	1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加（事前計画の 50%以上の増加）またはスケジュールの大幅な遅延（事業の完了が平成 24 年 3 月 31 日を越える）が生じた。
B 事業の実施結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
B 事業実施の成果・波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。

補助事業者名	〇〇県 〇〇市立〇〇小学校		事業項目名				
	名称 変更		補助対象事業	・地域ふれあい交流活動			
補助事業名	平成23年度 地域ふれあい交流活動 補助事業		事業コード				

経費総額(千円)	
交付要望額	700
交付決定額(a)	680
最終予算額	650
決算額 (b)	650
要望時	700
交付決定時	680
執行率 (b/a)	95.6%

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題（補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください）

社会的課題 (最終目的)	現 状	こどもたちの地域との交流経験の機会が少なく、地域への関心が低くなっている。
	目指 す姿	こどもたちが地域の大人たちとの交流の機会をもつことによって、地域への関心が持てるようになる。

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価（社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください）

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業 の目的 (中間目的)	・地場産業に関する学習や体験をおこなうことで、地域の理解を深める ・児童がグループ活動を実践することで、コミュニケーション力と主体性を身に付ける
-----------------------	---

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画				自己評価 I		自己評価 II		自己評価 II			
		補助金	交付要望時	作成者()	[平成 年 月 日]	計画変更時(最終計画)	作成者()	[平成 年 月 日]	作成者()	[平成 年 月 日]	作成者()	[平成 年 月 日]	
		具体的な内容				具体的な内容				分析・解釈・価値判断			
A 事業内容	受益者	対象者	本校教職員、本校児童(6、5年生、約120名)										
		ニーズ	新興住宅地から通う児童がここ数年で増加し、児童全般的に、地域と接する機会が減少している。										
		具体的内容	こどもたちと地域の大人との交流の機会をつくる。 ①果物作り農家で働く大人が先生になり、〇〇の果物づくりと農業の仕組みについての特別授業を子供たちが受ける。 ②果物農家での援農体験をする。本校児童6、5年生を対象にグループを編成する(10～14名)。 ③果物の皮の染料を用いた土産品づくりをし、駅前商店街のイベントで買い物客等へ無料で配布する。										
		実施計画	①特別授業：地域の農家の従事者を学校へ招き、〇〇の果物づくりと農業の仕組みについての特別授業6月～7月に開催し、生徒の父母や地域住民なども招いて、公開で行う。 ②果物農家での援農体験。本校児童6、5年生を対象にグループを編成する(10～14名)。 ③果物の皮の染料で絵を描いた葉を生徒が作り、駅前商店街のイベント「ハロウィン祭り」で無料配布する。										
	実施体制	本校教員、地域農家、PTA、商店街組合などで構成された本事業実行委員会を設置。月1回以上の委員会を開催し、進捗状況の報告・確認を行う。											
B 目標	事業の実施結果	指標	目標値	具体的な内容				指標	目標値	具体的な内容			
		①特別授業回数 ②援農体験日数 ③配布数	①4回 ②各人3日 ③240枚	①特別授業回数は講師 ②援農体験日数は収 ③土産品をひとり2枚				①4回 ②各人3日 ③300枚	①100% ②100% ③125%	①報告書(作文)を全児童が作成するという目標を設定していたが、指導が及ばず9名の参加児童が未提出のままに終わった。達成状況という点ではほとんどの児童が作文を書き、担当農家へ送り、グループごとに返信(11農家から)をいただいた。また、意見交換会では、児童が報告書を発表し、農家の方々からも感想や応援のメッセージをたくさんいただいた。一方、未提出児童への指導不足は大きな課題であると認識している。 ②全12グループが最後まで努力を続け、工芸品を完成し、商店街のイベント(ハロウィン祭)で無料配布を実施した。事前目標値は適切であった。			
	事業の成果・波及	①受入農家と児童の継続的な関わり	①60%	①本事業をきっかけに、児童と受入農家を中心としたことを目標とする。具体的には、事業終了後に手紙が継続していることを児童にアンケートをおこなっていることを目標値とする。				①73%	①121%	①参加児童の実に70%以上が、事業終了後も交流を継続していた。手紙による近況の報告や近所の農家にグループで手伝いに参加するなど自発的な交流が多く見られた。			

千円未満は切捨ててください。
数字は全て半角で入力してください。

数字は全て半角で入力してください。
小数点第1位まで記入してください。
(小数点第2位を四捨五入)

作成者名、作成日(半角)を入力してください。
2ページ目には自動的に反映されます。

枠内は補助事業終了後に作成してください。枠内は平成25年2月までの状況を同年2月に作成してください。

(3) 補助事業の自己評価（自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ）

自己評価のスコアリングガイドの基準に沿って採点してください。

スコアリングガイドの達成率を計算する時は、評価項目欄毎の複数の達成状況の平均で当てはめてください。(この例ですと 108%)

自己評価書 記入例 記入のガイドライン(2)

地域ふれあい交流活動

枠内は補助事業終了後に作成してください。

枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

(2) 補助事業の事前計画

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

評価項目		事前計画						自己評価			
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ	
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①ホームページ掲載更新回数 ②学校便り掲載回数	①4回 ②1回	①本校ホームページに、特別授業で2回、援農体験後1回、商店街イベントでの配布風景1回。(5～10月に4回更新) ②特別事業風景掲載1回				①7回 ②1回	①175% ②100%	①本校ホームページに、特別授業で2回、援農体験後4回、商店街イベントでの配布風景1回。(5～10月に4回更新) 参加生徒が多かったので、一度の掲載では掲載できず3回増やした。事前目標の設定が甘かった。②特別事業風景掲載1回	5
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①地域の新聞他掲載回数	①2回	①地域ふれあい新聞1紙				①2回	①100%	①地域ふれあい新聞1紙、学校便り1回掲載できた。発行日が決まっているため、事前計画の設定は妥当であった。	4
	JKAの競輪・オートレース資金で実施した事業でこの広報	①ホームページ掲載更新回数 ②特別授業時に	①4回	①本事業ブログに、本事業はJKAの「新世紀未来創造プロジェクト」の補助にて実施する旨を明記する。 ②地域住民を招き、全4回(7～8月)の競輪時に補助金で実施した商店街のイベント時に				①4回 ②4回 ③30回 ④1ヶ所	①100% ②100% ③84% ④100%	①本事業ブログに、本事業はJKAの「新世紀未来創造プロジェクト」の補助にて実施する旨を明記する。 ②父母や地域住民を招いて公開で行う特別授業時に、「JKA新世紀未来プロジェクト」の掲示と、紹介を行う。全4回(7～8月) ③援農体験時に補助事業であることを明記したのぼりを立てる。(10グループ×3日間) ④商店街のイベント時に、ブースへのぼりを立てる。①～④ともに計画どおり実施でき設定も妥当であった。	3
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①地域の新聞他掲載回数	①2回	①地域ふれあい新聞1紙				①2回	①100%	①地域ふれあい新聞1紙、学校便り1回	4
D 自己評価の体制				事業実施委員会(職員、地域農家、PTA、商店街組合)を中心とし、事業終了後に開催し、自己評価を決定する						分析・解釈・価値判断	採点
				○計画通りの評価体制、手法、時期によって実施できたか。 ○評価結果の公表状況について記入してください。 ○計画通りに実施できなかった場合には、その原因を分析して記入してください。(委員会等開催時の議事録等を添付してください)						11月8日に評価委員会(プロジェクト実施委員会7名+県教育委員会、市教育課、地域住民4名、計13名)を開催し、プロジェクトの成果報告と自己評価の検討、決定を行った。 また議事録は事業成果集へ掲載する。	5

(4) 補助事業の総括Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

総合評価

4

採点欄の平均ではありません。自己評価のスコアリングガイド【総合評価】に沿って採点してください。

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】 ・計画通りに事業を実施し、事業の計画外でも当該児童グループと地域農家との交流が生まれ、現在も続いている。 ・果物の皮の染色で菜を作成し、商店街イベントでは多くの住民にその成果を示すことができた。 【理由】 実行委員会特に農家の方々が積極的に個殿の興味を持つような援農体験プログラムを考えて頂いたため、参加の子供たちも飽きることなく、楽しく体験できたようである。商店街のイベントでは、自分たちが作成した菜を作り方を紹介しながら配布していた。	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点	【課題】 ・概ね各生徒とも積極的に取り組んでいたが、振り返りやまとめの段階で欠席するなど、最後まで取り組みなかった児童がいた。 【改善策】 ・児童の自主性にまかせる部分と教員が指導する範囲をさらに明確にする必要があったと考えられる。必要があれば教員だけでなく、実行委員会メンバーなどが指導する場面もあったも良かったという意見も出た。今後の課題としたい。
事業全体の総合的感想	事業全体を通して児童がとても積極的に参加し、粘り強く事業に取り組んだことが成果といえる。その過程で、地域の知識や地域農家との交流が生まれた。とりわけ、児童の会話の中で、「自分達の地域だから」という言葉が多く聞かれるようになったことは大きな変化だと捉えている。また土産品づくりもイベントでの配布という明確な目標があったため、丁寧に作成していた。	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)	本事業を実施することで、地域農家、PTA、商店街組合などの地域団体と連携することができた。この関係性を築いたことで、地域で子どもたちを育てていくという雰囲気地域に生まれ、自然と交流体制ができあがったことは大きな成果と考えている。また、約半年に及ぶ事業であったが、明確な目標と支援体制があることで、児童が積極的に参加できた。本事業の成果は、今後テーマや地域を変えても発揮することができると思う。

(5) 補助事業の総括Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況(必須)	1. 事業の目的 ・地域の特産物生産従事者との交流を通じて、学習や体験することで、こどもたちの地域への関心を高める。 → 本事業を通して生まれた農家と本校児童及び6年生は中学生となったが交流は現在も続いており、児童の地域への関心が高まったと言える。 2. 社会的課題 こどもたちが地域の大人たちとの交流の機会をもつことによって、地域への関心が持てるようになった。
----------------------------------	---

- (5) 補助事業の総括Ⅰの総合評価欄の採点も自己評価のスコアリングガイドを基準にしてください。※自己評価Ⅰの採点欄の平均点ではありません。

- (6) 自己評価書提出について

ア 自己評価Ⅰ

本要領に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記して、事業終了後２週間以内に、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします（P.8「５．自己評価書の作成・提出（１）」）をご参照ください。）
※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

なお、作成した自己評価書は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面でもご提出ください。

イ 自己評価Ⅱ

本要領に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に平成２５年２月末の現況を追記して、平成２５年３月末までに、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします。（P.9「５．自己評価書の作成・提出（２）」をご参照ください。）

※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

【自己評価のスコアリングガイド 2/2】

C 補助事業によりもたらされた成果の広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。（表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど）
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
C JKA の競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関（新聞等）に大きく取り上げられた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
D 自己評価の実施体制	5	外部委員が参加する評価委員会で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	4	団体内部に組織された評価委員会（外部委員の参加なし）で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	3	委員会形式ではないが自らの事務局内部に組織上の評価体制があり、また、記録（議事録）から同体制で実施された評価過程等が確認できる。
	2	本事業の担当者が単独で評価し、団体責任者が決裁するなど、評価について議論する場が設定されていないが、評価過程等が記録で確認できる。
	1	担当者のみで評価した。または、議事録など、評価の実施過程等を示す記録が示すものがない。
総合評価	5	全体として極めて高いレベルの事業であった。
	4	全体として比較的高いレベルの事業であった。
	3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。
	2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつかの課題が残った。
	1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。

Ⅲ 事前計画の作成にあたって

事前計画の作成の注意事項（１）

補助事業の事前計画を、右ページの様式の記入ガイドライン(噴出し部分)、記入例等を参考に作成してください。（P4「2. 事前計画について」も併せてご参照ください。）

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A3横版の2枚構成になっています。

- (1) 事前計画は、補助金交付内定通知 別紙「事業計画書」の3. 補助事業計画（2）内容欄に列挙された項目（事業）毎に作成してください。
- (2) 様式は、必ず本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。
 - ア 事前計画で記入する箇所は、白抜きの太枠で囲まれた欄のみです。
 - イ 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。
 - ウ 要望時から計画に変更のない事業は「補助金交付要望時」の列に記入してください。査定結果で事業内容に変更が生じた事業は、要望時の計画を「補助金交付要望時」の列に記入し、さらに、変更箇所のみを隣の「計画変更時」の列に記入してください。
 - エ 「指標」と「目標値」は、必ずご記入ください。（P.5・P.6もご参照ください。）
 - ① 指標、目標値欄が設定された評価項目
「自己評価」で達成率（達成状況）を計算していただきますので、数値で表現した指標と目標値を必ず1セット以上設定してください。
 - ② 指標、目標値欄の設定がない評価項目
できるだけ数値で表現できる指標と目標を設定し、ご記入ください。
（数値表現が難しい場合は、数値以外の指標と目標を設定するよう努めてください。）
 - ③ 指標、目標値の設定にあたっては、必ずその設定根拠を具体的な内容欄に記入してください。

【右ページの丸付き数字の欄は以下のとおり記入してください。】

- ① 内定通知書に記載された整理番号。
- ② 要望時から補助事業者名の変更があるときは名称変更欄へ旧名称を記入。
- ③ 内定通知書に記載された事業名。
- ④ ①の項番に該当する項目名。
- ⑤ 要望書提出時のそれぞれの金額を記入。

補助事業者名 ②	△△県 □□市立〇〇中学校 名称変更	事業項目名	該当しない文字を削除してください。	補助金(千円) ⑤	補助対象経費総額(千円)
補助事業名 ③	実践的研究を通じた人間力育成支援活動	補助対象事業	・実践的研究を通じた人間力育成支援活動④	交付要望額	8,700
		事業コード		交付決定額(a)	
				最終 決算額	交付決定時
				数字は全て半角で入力してください。①⑤ 千円未満は切捨ててください。⑤	

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題 (補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください)

社会的課題 (最終目的)	現 状	エネルギー問題や環境問題など社会が抱える様々な課題に科学や科学技術は不可欠であるにも関わらず、「理科離れ」の議論に象徴的に表されるように、子どもたちの科学に対する関心が希薄な傾向にある。
	目指す姿	現代社会の暮らしに欠かせない科学・技術を学ぶ機会を提供する事で、未来を担う子どもたちの科学的な視野を広げたい

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価 (社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください)

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業の目的 (中間目的)	・新エネルギー研究に必要な情報を伝え、各自が課題として取組むことで、「考える力」をつける事が出来るようにする。 ・学級毎に作品を制作する事で、グループ研究に必要な「認め合う力」「協力する力」をつける事が出来るようにする。 ・「全国中学生作品コンクール(理科の部)」に出場する経験を通し自分達の研究が社会の課題解決へと繋がる事を知る。
-------------------	--

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		補助金 交付要望時 作成者() [平成 年 月 日]	計画変更時(最終計画) 作成者() [平成 年 月 日]	自己評価 I 自己評価 II	
		具体的な内容	具体的な内容	自己評価 I 補助事業終了時作成 () [平成 年 月 日]	自己評価 II 平成25年3月に作成 () [平成 年 月 日]
A 事業内容	受益者	対象者 本校全生徒:約180名(一学年約60名。各学年2学級) 研究参加生徒:本校1,2年生を中心とした生徒		この事業により利益を受ける人または組織 直接的に受ける人(組織)と間接的に受ける人(組織)が分けられるときは 分けて記入してください。	
	ニーズ	科学技術が身近に溢れているにも関わらず、科学に対する興味が弱い傾向にある生徒に科学の楽しさを体感し興味を持ってもらう事が望まれる。		本事業が必要とされている状況を具体的に記入してください。	
	具体的内容	【特別授業】本校では以前より生徒自身による「模型自動車」の作成を行っている。本事業ではその模型自動車を使い科学技術である新エネルギー(太陽光、風力、バイオマス、廃棄物、燃料電池等)を使い「模型自動車を新エネルギーで走らせる研究」をテーマに本校生徒対象に特別授業を実施。外部から講師を招き(大学教授、研究員、環境問題に取り組むNPO法人等)、本校理科教員が協力し実験等を取り入れたわかりやすい授業を実施する。 【作品作り】1,2年生生徒を対象に個人で設計・製作を夏休み宿題とし、9月に学級内で発表し、優れたアイデア、共同研究可能なアイデアなどを中心に各学級で研究結果とし、「全国中学生作品コンクール(理科の部)」(11月)へ出場し発表する。		受益者のニーズに応え、補助事業の目的を達成する為に行う事業の内容を具体的に記入してください。	
	実施計画	【特別授業】・新エネルギーについて特別授業(校外の専門家を講師に招く)(4月~7月 計4.5回予定) ・特別授業の各回終了時にアンケートを記入する。また、特別授業終了後と県大会終了後に生徒に感想文を提出させる。 【作品作り】・個人研究(7~8月) 学級内成果発表会(9月)、「全国中学生作品コンクール(理科の部)」(11月)。 ・「全国中学生作品コンクール(理科の部)」への発表内容を「成果発表会」とし生徒、学校関係者、PTA、講師・アドバイザーとして招いた関係者なども招待し開催する。 ・「全国中学生作品コンクール(理科の部)」終了後に生徒に感想文を提出させる。		事業の実施計画を具体的に記入してください。 ○準備から実施までのスケジュール管理を記入してください。 ○実施後に満足度等を計るフォローアップを計画している場合は明記してください。	
実施体制	【特別授業】・生徒指導担当として本校理科教員2名。学年主任教員2名を中心とした「本プログラム実施会議」で状況確認や計画の検討、調整を行う。(4月~7月 計4.5回予定) ・外部の専門家(大学教授、研究員など)、環境問題に取り組むNPO団体や企業などから特別事業の講師を招く。 【作品作り】理科担当教員2名を中心に、生徒の指導にあたる。		事業の実施体制について、以下の項目を記入してください。 ○事業を実施するメンバー構成、責任者と役割分担 以下の事項に該当する場合は内容を記入してください。 ○外部人材の活用や協力団体との連携がある場合 ○専門性のある人材または体制が組み込まれている場合		
B 目標	事業の実施結果	指標 ①特別授業アンケート・感想文提出数 ②「全国中学生作品コンクール(理科の部)」への出場作品数 ③成果発表会回数 目標値 ①生徒全員(180名) ②4作品 ③1回	具体的な内容 ①特別授業の各回終了時にアンケートを記入、全授業日程終了時に感想文を提出させ、科学技術への関心・理解の到達度を図る。 ②各学年2学級、各学級1作品の出場。 ③「全国中学生作品コンクール(理科の部)」への発表内容を「成果発表会」とし生徒、学校関係者、PTA、講師・アドバイザーとして招いた関係者なども招待し開催する。	指標 達成値 達成状況	具体的な内容 事業の実施結果(提供するサービス等)の目標を定めてください。 【指標・目標値】例 体験学習(例:生徒感想文集・参加者全員分〇人 等) ・ものしらべや研究(例:授業参観での発表・発表件数〇件 等) ・地域イベント参加(例:参加者数、〇人) 等 【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。
	事業の成果・波及	①自己評価シートの作成及び平均点 ②学会、研究会での事例発表会、報告回数 ③次年度プログラムへの継続 目標値 ①7点以上/平均点(10点満点) ②5回 ③同規模以上のプログラム継続	①生徒を対象に自己評価シートを記入させる。「科学への関心度」「考える力」「協力する力」が測れる項目とし、評価委員会が10点満点で採点する。 ②1年間の研究活動の事例を、教育関係、研究開発関係の学会や研究会にて報告、発表を行う。 ③また別のテーマを生徒主体で設定し(引き続き参加する新2年生が中心)、発表を目標とした研究活動プログラムを実施する。	補助事業終了後から一定期間経過後(平成25年2月末まで)に達成を目指す成果目標を定め、その利活用方法も記入してください。 【指標・目標値】例 体験学習(例:学校の事業成果作成・〇冊作成配布 等) ・ものしらべや研究(例:継続研究クラブ新設・〇人参加 地等) ・地域イベント参加(例:継続的にかかわり度・〇%向上 等) 等 【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。	

記入のガイドライン

事前計画 記入例 記入のガイドライン(2)

実践的研究を通じた
人間力育成支援活動

□ 枠内は補助事業終了後に作成してください。

□ 枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

(2) 補助事業の事前計画

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

評価項目		事前計画						自己評価				採点	
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ			
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断			
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①ホームページ更新回数 ②成果発表会開催数	①4回/年 ②1/年	①学校ホームページにスタート時、成果発表会時に活動内容を掲載、県大会へ向けての取り組みは結果も含めて随時更新する。 ②「全国中学生作品コンクール(理科の部)」への発表内容を「成果発表会」とし生徒、学校関係者、PTA、講師・アドバイザーとして招いた関係者なども招待し開催する。			<div>【上段】事業開始から事業終了後2週間までの広報計画を記入してください。 補助事業であることを貴学校や地域内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【下段】事業終了後2週間後から25年2月末までの間の広報計画を記入してください。 補助事業であることを貴学校や地域内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【指標・目標値(例)】マスメディアの取材回数・2回、地域新聞・学校誌掲載時期・2回 等</div> <div>【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。</div>					記入のガイドライン	
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	メディア掲載数	2誌(紙)	「全国中学生作品コンクール(理科の部)」に関しては積極的にメディアへの情報提供を行い、タウン誌やCATVなどのローカルメディアへの露出を果たす									
	JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	①ホームページ更新回数 ②成果発表会開催数	①4回/年 ②1/年	①ホームページに、本活動はJKAの「新世紀未来創造プロジェクト」として補助を受けて行う旨を明記する。 ②成果発表会の際に、本活動がJKAの「新世紀未来創造プロジェクト」として補助を受けて行ったことを紹介する。				<div>【上段】事業開始から事業終了後2週間までの広報計画を記入してください。JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることを貴学校や地域内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【下段】事業終了後2週間後から25年2月末までの間の広報計画を記入してください。JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることを貴学校や地域内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【指標・目標値(例)】マスメディアの取材回数・2回、地域新聞・学校誌掲載時期・3回 等</div> <div>【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。</div>					
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	メディア掲載数	2誌(紙)TV	メディア掲載時に記事の中で、本活動がJKAの補助を受けて行った旨を掲載する。									
D 自己評価の体制		具体的な内容			具体的な内容			分析・解釈・価値判断				採点	
		担当教員を含めた学校関係者、講師・アドバイザーとして招いた関係者に加え、参加生徒からも各学年1般名で評価委員会を設置。本年度の評価と次年度以降についての内容、目標設定を行う。			<div>事業の自己評価体制について、以下の項目を記入してください。 ○評価を実施する体制(メンバー構成など)、責任者 ○評価の具体的な方法、手順 ○構成に第3者(外部委員など)が入るのであればその旨記入してください。 ○自己評価結果の公表方法</div> <div>※詳細は、スコアリングガイドを参照。</div>								

(4) 補助事業の総括 Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

総合評価

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、 優れていると評価できる点		今回の事業の課題・改善すべきと思われる点	
事業全体の総括的感想		事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)	

(5) 補助事業の総括 Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況(必須)	
----------------------------------	--

事前計画の作成の注意事項（２）

（３）事前計画の提出

事前計画は、本要領に従い、ご記入の上、補助事業交付申請時に紙面（モノクロプリント）で補助金交付申請書に添付しご提出ください。

※紙面でのご提出と併せて、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へもメールにてご提出をお願いします。

※メール提出方法は、（P.6「３．事前計画の作成・提出」）をご参照ください。

補助事業の表示・公表について（重要）

当該事業が補助事業であることの表示と、補助事業の実施内容と成果の公表が行われない場合、あるいは不十分な場合は、公益規程第 30 条の定めにより、補助金の全部又は一部の交付の決定を取り消す場合がありますので、表示・公表を徹底してください。また、十分なPRに務めてください。

（本財団では、証左となる写真、印刷物、映像・音声データ等のご提出を求めます。）

○補助事業を実施する場合には、補助事業である旨の表示

「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることが、補助事業に接する一般の方にご認識いただけることがポイントです。（標識の表示等）

○「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることの公表

「JKA の競輪・オートレースの補助金で事業を実施したこと」を、広く社会一般にお知らせすることがポイントです。（市報への掲載等）

※表示等の詳細は、補助要領をご参照ください。

IV 自己評価書の作成にあたって

自己評価書の作成の注意事項（１）

自己評価を、右ページの様式の記入ガイドライン（噴出し部分）と記入例等を参考に、提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記（採点欄のある評価項目は、自己評価のスコアリングガイドを基準に採点・記入）し、提出してください。（P.7「4. 自己評価について」）も併せてご参照ください。

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A 3 横版の 2 枚構成になっています。

(1) 自己評価は、採点も含め、評価委員会等の自己評価体制の合意のもとで実施してください。

※評価にあたっては、議事録等を作成し評価過程を記録してください。

(2) 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

(3) 記入箇所と提出期限

① 1 回目（自己評価Ⅰと補助事業の総括Ⅰ）

右ページ「記入例」では太枠で囲まれた欄（ダウンロード上は青色に彩色された欄）です。

② 2 回目（自己評価Ⅱと補助事業の総括Ⅱ）

右ページでは角丸二重枠で囲まれた欄（ダウンロード上はピンク色に彩色された欄）です。

(4) 非数値の指標と目標値の達成状況

評価項目により、非数値の指標と目標を設定した場合でも、その達成状況を必ずご記入ください。

【自己評価のスコアリングガイド 1/2】

A 受益者	5	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した受益者を超えて、補助事業の効果が大きな広がりを見せている。
	4	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。
	3	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該受益者のニーズにほぼ沿った事業を実施することができた。
	2	受益対象者、ニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。または、受益対象者、ニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該受益者のニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。
	1	受益対象者、ニーズの想定に大きな誤りがあった。または、受益対象者、ニーズの想定に誤りがなかったものの、本事業の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても当該受益者のニーズに対応することができなかった。
A 実施計画及び実施体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える事業を実施することができた。
	4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に事業を実施できた。
	3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく事業を実施できた。
	2	事前計画に不十分な部分（実施手法・スケジュール・コスト・体制）があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
	1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加（事前計画の 50%以上の増加）またはスケジュールの大幅な遅延（事業の完了が平成 24 年 3 月 31 日を越える）が生じた。
B 事業の実施結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
B 事業実施の成果・波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。

補助事業者名	△△県 □□市立〇〇中学校		事業項目名	経費総額(千円)					
	名称 変更			交付要望額	8,700	要望時	8,700		
補助事業名	実践的研究を通じた人間力育成支援活動		補助対象事業	・実践的研究を通じた人間力育成支援活動		交付決定額(a)	8,700	交付決定時	8,700
						最終予算額	8,700	執行率 (b/a)	100.0%
						決算額	8,700		

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題（補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください）

社会的課題 (最終目的)	現 状	エネルギー問題や環境問題など社会が抱える様々な課題に科学や科学技術は不可欠であるにも関わらず、「理科離れ」の議論に象徴的に表されるように、子どもたちの科学に対する関心が希薄な傾向にある。
	目指す姿	現代社会の暮らしに欠かせない科学・技術を学ぶ機会を提供する事で、未来を担う子どもたちの科学的な視野を広げたい

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価（社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください）

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業の目的 (中間目的)	・新エネルギー研究に必要な情報を伝え、各自が課題として取組むことで、「考える力」をつける事が出来るようにする。 ・学級毎に作品を制作する事で、グループ研究に必要な「認め合う力」「協力する力」をつける事が出来るようにする。 ・「全国中学生作品コンクール(理科の部)」に出場する経験を通し自分達の研究が社会の課題解決へと繋がる事を知る。
-------------------	--

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画				(3) 補助事業の自己評価（自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ）				採点			
		補助金	交付要望時	作成者()	計画変更時(最終計画)	作成者()	自己評価Ⅰ	自己評価Ⅱ					
A 事業内容	対象者	本校全生徒：約180名（一学年約60名。各学年2学級） 研究参加生徒：本校1,2年生を中心とした生徒				全校生徒183名を対象に実施。アンケート・感想文の内容で、科学への意識付けのきっかけになったことがわかった。（アンケートでは73%の生徒が「興味が出た」との回答だった。アンケート結果は別紙参照） 教科としての理科への関心は低い生徒も参加に興味を示すなど、本プログラムに対するニーズは高かった。				4			
	ニーズ	本校全生徒：約180名（一学年約60名。各学年2学級） 研究参加生徒：本校1,2年生を中心とした生徒				本プログラム全般において、ほぼ計画通りに実施した。また、1作品が県大会で3位となり、全国大会へ出場した。 【特別授業】4～6月、各2回実施 講師：企業、研究機関、NPO法人から各回1名、計6名招聘した。 【作品作り】模型自動車の設計～製作（7～9月）、級内成果発表会の開催（9月）、学級内研究（9月～10月）、「全国中学生作品コンクール(理科の部)」(11月〇日) 成果発表会（11月〇日）				4			
	具体的内容	【特別授業】本校では以前より生徒自身による「模型自動車」の作成を行っている。本事業ではその模型自動車を使い科学技術である新エネルギー（太陽光、風力、バイオマス、廃棄物、燃料電池等）を使い「模型自動車を新エネルギーをで走らせる研究」をテーマに全校生徒対象に特別授業を実施。外部から講師を招き（大学教授、研究員、環境問題に取り組むNPO法人等）、本校理科教員が協力し実験等を取り入れたわかりやすい授業を実施する。 【作品作り】1、2年生生徒を対象に個人で設計・製作を夏休み宿題とし、9月に学級内で発表し、優れたアイデア、共同研究可能なアイデアなどを中心に各学級で研究結果とし、「全国中学生作品コンクール(理科の部)」(11月)へ出場し発表する。				自己評価のスコアリングガイドの基準に沿って採点してください。							
	実施計画	【特別授業】・新エネルギーについて特別授業（校外の専門家を講師に招く）（4月～7月 計4回） ・特別授業の各回終了時にアンケートを記入する。また、特別授業終了後と県大会終了後、アンケート結果を振り返り、今後の活動に活かす。 【作品作り】・個人研究（7～8月） 学級内成果発表会（9月）、「全国中学生作品コンクール(理科の部)」(11月)へ出場し発表する。 ・終了後に生徒に感想文を提出させる。				理科担当教員2名を中心に、プログラム実施会議(学年主任、担当等4名、平均月3回開催)がバックアップする体制で実施した。 【特別授業】講師の招聘も予定通りに行うことができ、成果を達成した。 【作品作り】本校理科教員2名でたたるのは、時間的にやや無理があり、プログラム後半の指導体制にも外部講師を入れた方がより効果的だったのではないかという課題は残った。				4			
B 目標	事業の実施結果	指標	目標値	具体的な内容		指標	目標値	具体的な内容		達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点
	事業の成果・波及	①特別授業アンケート・感想文提出数 ②「全国中学生作品コンクール(理科の部)」への出場作品数 ③成果発表会回数	①生徒全員(180名) ②4作品 ③1回	①特別授業の各回終了の関心・理解の到達度 ②各学年2学級、各学級1作品 ③「全国中学生作品コンクール(理科の部)」への出場作品数 PTA、講師・アドバイザー		①達成率 ②達成率 ③達成率	①達成率 ②達成率 ③達成率	①達成率 ②達成率 ③達成率		①達成率 ②達成率 ③達成率	①達成率 ②達成率 ③達成率	①達成率 ②達成率 ③達成率	4
		①自己評価シートの作成及び平均点 ②学会、研究会での事例発表会、報告回数 ③次年度プログラムへの継続	①7点以上/平均点(10点満点) ②5回 ③同規模以上のプログラム継続	①生徒を対象に自己評価項目とし、評価委員会が ②1年間の研究活動の事後評価 ③また別のテーマを生徒動プログラムを実施する		①達成率 ②達成率 ③達成率	①達成率 ②達成率 ③達成率	①達成率 ②達成率 ③達成率		①達成率 ②達成率 ③達成率	①達成率 ②達成率 ③達成率	①達成率 ②達成率 ③達成率	3

千円未満は切捨ててください。
数字は全て半角で入力してください。

数字は全て半角で入力してください。
小数点第1位まで記入してください。
(小数点第2位を四捨五入)

※社会的課題と補助事業の関係（なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか？）

- 補助事業は、様々な「社会的課題」を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指す。
(1) 補助事業の設計
「社会的課題」の把握 ⇒ (改善・解決のための手法決定) ⇒ 達成「目的」の設定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
(2) 補助事業の実施
「補助事業」の実施 ⇒ 「補助事業」の実施結果 ⇒ 「補助事業」の成果(改善効果) ⇒ 「目的」の達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等
- 左記に「社会的課題と補助事業の関係」を示す「流れ図」を掲げましたので、事前計画とともに内容を記入し、流れ図を完成してください。
- 補助事業の設計と実施にあたっては、この「流れ図」と自らの補助事業を対比し、計画は明確な「目的」、「成果」、「結果」、「内容」が設定され、「社会的課題」の改善・解決等に資するものであるか(流れを合理的に説明できるか)を、常に検証してください。
- また、補助事業実施の効果等を客観的に把握し今後の改善につなげるため、各評価項目の達成度を検証する「指標」(達成指標)と「目標値」を計画段階でこの「事前計画／自己評価書」で明示し、事業実施後に各評価項目の「指標」の達成度を検証し、事業を評価することが重要です。

枠内は補助事業終了後に作成してください。枠内は平成25年2月までの状況を同年2月に作成してください。

作成者名、作成日(半角)を入力してください。
2ページ目には自動的に反映されます。

記入のガイドライン

〇狙い通りの対象者(ターゲット)に事業を実施できたか。出来なかった場合、想定と異なった場合には、その理由を記入してください。
〇受益者のニーズに沿った事業となっていたか。またできなかった場合、その理由を記入してください。

〇事前計画通りに事業を実施できたか。できなかった場合には、その理由を記入してください。
〇費用に合う成果をあげる事ができたか。予算は適切であったか。また予算と実績が異なる場合には、その理由を記入してください。
〇効率的に事業を実施できたか。また出来なかった場合には、その理由を記入してください。

〇事前計画通りの体制で事業を実施できたか。事業実施にあたっては、責任の所在が明確で、指示、連絡などが円滑におこなわれたか。できなかった場合には、その理由を記入してください。
〇事前計画の実施体制は妥当であったか。
〇外部人材の活用や協力団体との連携による専門性・効率性の確保ができたか。

【達成値】具体的な達成値を記入してください。
【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。
【分析・解釈・価値判断】事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してください。

【達成値】具体的な達成値を記入してください。
【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。
【分析・解釈・価値判断】事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してください。

スコアリングガイドの達成率を計算する時は、評価項目欄毎の複数の達成状況の平均で当てはめてください。(この例ですと 80%)

自己評価書 記入例 記入のガイドライン(2)

実践的研究を通じた
人間力育成支援活動

枠内は補助事業終了後に作成してください。

枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

(2) 補助事業の事前計画

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

評価項目		事前計画						自己評価			
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ	
		作成者() [平成 年 月 日]			作成者() [平成 年 月 日]			作成者() [平成 年 月 日]		作成者() [平成 年 月 日]	
指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断		採点	
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①ホームページ更新回数 ②成果発表会開催数	①4回/年 ②1/年	①学校ホームページにスタート時、成果発表会時に活動内容を掲載、県大会へ向けての取り組みは結果も含めて随時更新する ②「全国中学生作品コンクール」PTA、講師・アドバイザー				①6回/年 ②1/年	①150% ②100%	①参加生徒の要望や協力もあり、ホームページ更新回数は全6回行い、目標値を大きく上回った。目標値をもう少し高く設定しても良かった。 ②参加生徒含む全校生徒(183名)、本校教員(21名)、外部参加者(34名)で、11月10日に開催した。その他に、「全国中学生作品コンクール(理科の部)」は全国紙含む4紙に掲載され、NHK-BSとMX-TVのニュース枠でのOAがあり、いずれも本校名と研究名の露出があったが、JKAの「新世紀未来創造プロジェクト」として補助を受けた旨の露出はなかった。	5
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	メディア掲載数	2誌(紙)	「全国中学生作品コンクール」やCATVなどのローカルメディア				1誌	50%	メディア掲載はタウン誌「〇〇通信」1誌にとどまった。他誌(紙)、CATVにも取材オファーをし、打ち合わせ段階までは進行したが、掲載には至らなかった。目標値を達成する事は出来なかった。	1
	JKAの競輪・オートレース賞金で実施した事業でこの広報	①ホームページ		①ホームページに、本活動はJKAの「新世紀未来創造プロジェクト」として補助を受けて行う旨を明記す				①6回/年 ②1/年	①150% ②100%	①ホームページ内の本プログラム紹介ページのトップにJKAの「新世紀未来創造プロジェクト」として補助を受けて行う旨を、年間にわたって掲載した。目標値をもう少し高く設定しても良かった。 ②発表会の冒頭および結びのあいさつ時に本校校長および担当教員が、本活動は補助事業であることを紹介した。	5
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	メディア掲載数	2誌(紙)TV	メディア掲載時に記事の				1誌	50%	タウン誌の記事中に補助の紹介を掲載した。	1
D 自己評価の体制		事業実施委員会(職員、地域農家、PTA、商店街組合)を中心とし、						外部識者(全国科学教育部会代表、理科離れを考える会代表など)も含めた評価委員会(12名)を、4月(事前)、9月(中間)、3月(総括)と3回開催し、本プログラムの評価を行った。特別授業アンケート集計結果を資料として提出した。また、評価結果、議事録等は学校ホームページに掲載した。		5	

(4) 補助事業の総括 Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

総合評価

4

採点欄の平均ではありません。自己評価のスコアリングガイド【総合評価】に沿って採点してください。

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】 特別授業講師には教育機関以外にNPO団体や企業からの招聘も実現し、バラエティに富んだ内容が生徒の興味・関心を惹き、科学・技術への意識付けにつながった(感想文、アンケートより)。 校内成果発表会では全参加生徒による発表が行われた。 「全国中学生作品コンクール(理科の部)」では3位入賞が1件で、さらに同一校からの複数研究参加ということで全グループを対象に特別賞をいただいた。 【理由】 講師・アドバイザーの方々のおかげで生徒のモチベーションを高めた状態でスタートできたことが、成果につながった。さらに個人→学級→全国大会へとステップアップするプログラムが機能し、全参加生徒が最後までたどり着けた。	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点	【課題】 目標値がクリアできたという点では良かったが、研究内容にはグループ間でややレベルのバラつきがみられた。「全国中学生作品コンクール(理科の部)」で受賞した特別賞があったため、表面上は目立たなかったが、次年度以降は、グループ研究の指導体制を見直す必要がある。 【改善策】 講義を担当した外部講師の方々に、グループ研究についてもサポートしていただく機会を設けるべきだったと感じる。スケジュールの問題など検討課題はあるが、全体の底上げを図るために指導体制の強化策を検討して実施したい。
事業全体の総括的感想	特別授業では、想像以上に生徒の関心が高く、積極的な参加が見られた。参加生徒が最後まで取り組めたこと、「全国中学生作品コンクール(理科の部)」での入賞(特別賞含め)、全国大会への出場を果たしたことなど、一定以上の成果があったといえる。 課題として指導体制の点はあげられるものの、生徒側からの次年度以降への要望の声もあがっており、より万全な体制で続けるためにプログラムと体制を改善する。また、本プログラムで得た成果を通常の理科の授業にも反映し、「理科に強い〇〇中学」を掲げ全校生徒とも共有する事でさらに生徒の科学への意識を高める事を目指したい。	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)	外部からの講師を向かえたことの意義が大きく、また生徒たちも徐々にステップアップするプログラムなので無理なく目標とする理解度まで到達することができた。「理科離れ」「科学離れ」の問題解決としては、学校外部との連携や段階的な実践を取り入れることが一つの方法論であることがわかった。

(5) 補助事業の総括 Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況(必須)	1. 事業の目的(中間目標) ・生徒たちが「考える力」をつける／共同作業のやり方を学ぶ → 「全国中学生作品コンクール(理科の部)」の結果(入賞)、自己評価シートの平均点での目標値は達成した。今後は生徒個別へのフォローでさらに目標へと近づけていきたい。 ・自分たちの研究が社会の課題解決へと繋がることを知る → 全校生徒へも「課題解決としての科学と研究」について紹介するなど、本プログラムの成果を本校での指針として定着させている 2. 社会的課題(最終目標) プログラムの継続、授業への反映など本校での目標達成への積み上げは順調といえるが、外部への発表はまだ不十分である。本プログラムに協力してもらっている外部講師との連携を強化し、本プログラムの外部への発信、成果共有を今後の課題とし、目標達成を目指す。
----------------------------------	--

自己評価書の作成の注意事項（２）

(5) 補助事業の総括Ⅰの総合評価欄の採点も自己評価のスコアリングガイドを基準にしてください。※自己評価Ⅰの採点欄の平均点ではありません。

(6) 自己評価書提出について

ア 自己評価Ⅰ

本要領に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記して、**事業終了後２週間以内に、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします（P.8「５．自己評価書の作成・提出（１）」）**をご参照ください。）
※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

なお、作成した自己評価書は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面でもご提出ください。

イ 自己評価Ⅱ

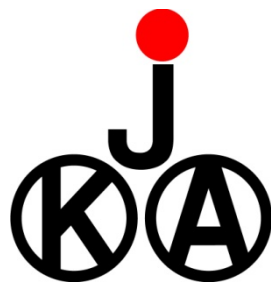
本要領に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に平成２５年２月末の現況を追記して、**平成２５年３月末までに、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします。**

（P.9「５．自己評価書の作成・提出（２）」をご参照ください。）

※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

【自己評価のスコアリングガイド 2/2】

C 補助事業によりもたらされた成果の広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。（表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど）
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
C JKA の競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関（新聞等）に大きく取り上げられた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
D 自己評価の実施体制	5	外部委員が参加する評価委員会で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	4	団体内部に組織された評価委員会（外部委員の参加なし）で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	3	委員会形式ではないが自らの事務局内部に組織上の評価体制があり、また、記録（議事録）から同体制で実施された評価過程等が確認できる。
	2	本事業の担当者が単独で評価し、団体責任者が決裁するなど、評価について議論する場が設定されていないが、評価過程等が記録で確認できる。
	1	担当者のみで評価した。または、議事録など、評価の実施過程等を示す記録が示すものがない。
総合評価	5	全体として極めて高いレベルの事業であった。
	4	全体として比較的高いレベルの事業であった。
	3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。
	2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつもの課題が残った。
	1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。



問合せ先

財団法人 JKA

〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6

〔補助事業評価室 評価担当〕

TEL:03(3512)1279 FAX:03(3512)1274

問合せ時間 平日の午前9時30分 から 午前12時まで

午後1時 から 午後5時30分まで

ホームページアドレス

補助事業

<http://ringring-keirin.jp>